

出前授業・模擬選挙
地方公共団体主体
小学生等

模擬議会・議員との交流
若者議会・こども議会
高校生

大学・若者グループ等との交流
座談会等
大学生・短大生・高専生

【参考】 学校・民間団体が主体の取組
特別支援学校生
若者層 (10～20代)

⑦和泊町（鹿児島県）（人口6,296人）※令和5年1月1日現在

選挙出前授業及び模擬選挙

■取組の概要

- 県を通じて出前授業の要望があった小学校、高校において選挙出前授業を実施。
- 小学校では、選挙制度に関する授業と模擬選挙を実施し、高校では生徒会選挙の直前に選挙制度に関する授業を実施。
- 高校の授業は、隣接する知名町選管と共同で対応。



実施概要

実施年度	平成27年度から毎年実施
対象者	鹿児島県のアンケートにおいて実施希望があった学校の児童・生徒
参加者数	町立和泊小学校約70名、県立沖永良部高校約80名（令和5年度）
事業規模（予算）	なし

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯、当初の問題意識>

- 県が県内の学校に出前授業の希望に関するアンケートを実施しており、県を通じて小学校、高校から町に対して出前授業を実施してほしい旨の依頼があり実施に至った。

■実施の体制

<庁内の実施体制>

- 選管委員4名、書記長（兼任）、書記1名（兼任）

<外部との連携体制>

- 沖永良部高校は、和泊町と隣接する知名町にある沖永良部島唯一の高校であることから、知名町選管と連携して出前授業を実施。

■取組の効果・成果

- 和泊小学校では、「未来の和泊町長選挙」と題した模擬選挙を実施した。身近な題材を扱うことで、子どもたちに対する選挙の意識づけができていると感じている。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

出前授業や模擬選挙を実施するのは大変な面もありますが、実施してしまえば意外とできるので、まずはやってみてほしいと思います。
実際に身体を動かしながら選挙に関われるので、模擬選挙はおすすめです。

■取組のステップとポイント

①事前準備

【4月～】学校と調整（時期・内容の決定）

- ・県が県内の学校の出前講座希望を取りまとめ、沖永良部島にある学校で希望があれば町に情報共有。

[小学校]

- ・町から学校に連絡し、実施時期と内容を決定。
- ・電話で4～5回ほど協議を重ね、模擬選挙の立候補者の演説時間や投票から開票までの流れ、授業の内容について調整。

[高校]

- ・学校と1回打合せを行い、授業の役割分担を知名町と調整。

【実施2週間前】内容の確認

- ・打合せや電話で把握した要望をもとに、出前授業の資料を作成し、学校に確認。

【実施1週間前】資料と機材の確認

- ・当日に使用する資料と機材について学校に最終確認。

<当日の実施内容>

○授業のみの場合

- ・授業1コマを使用し、選管職員が説明を実施（知名町と共同で実施する場合は2町で1コマを分担）。

○模擬選挙も実施する場合

- ・授業2コマを使用して実施。
- ・選管職員が投票から開票までの一連の流れを説明後、グループまたは立候補者から発表をもらい、投票から開票まで実施。



発表の様子

②取組実施

③実施後

- ・教員にアンケートを実施し、出前授業のボリュームや難易度、教材の分かりやすさに対する満足度、来年度以降の改善要望等を把握している。

【ポイント】

- ・出前授業は、小学生に興味を持ってもらえるようなクイズを実施してみてもどうかと提案した。結果として、このクイズがこどもたちの興味を惹きつけることに役立っていた。
- ・出前授業用の資料は、総務省のホームページに掲載されている資料や高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用することで効率化を図った。



投票の様子

【ポイント】

- ・模擬選挙は、「未来の和泊町長選挙」と題して児童が立候補者役を担った。身近な題材とすることで興味関心を惹きつけられた。
- ・学校と選管で役割分担を明確している。
学校：立候補者役の児童の選定や演説資料の作成
選管書記：当日の進行
選挙管理委員：模擬選挙の立会人

【ポイント】

- ・教員アンケートでは、「最近ではYouTubeに慣れ親しんだこどもが多いため、動画教材があると良いのではないかと」等具体的な改善提案があった。